

A 係助詞と結びの活用形

(1) ①ぞ／連体形 ⑦なむ／連体形 ⑬ぞ／連体形 /
「ぞ・なむ」は連体形で結ぶ

(2) すべて「こそ」／已然形 / 「こそ」だけが已然形

(3) ⑤か／連体形 ⑨や／連体形

(4) 語尾が「ゆ」→「ゆる」に変わっている。下二段活用の
連体形 / 形が変わるので見つけやすい

B 意味

(5) 強意

(6) 疑問

(7) 強意

(8) どちらも疑問（嘆きをふくむ）

(9) どちらも反語 / 訳が「～だろうか、いや～ない」になる

C 結びの語

(10) ②美しき／連体形 ⑩ける／連体形 ⑮参り来る／連
体形 / いずれも「なむ・ぞ」を受けている

(11) 「ね」（打消の助動詞「ず」の已然形）

(12) 「らむ」（連体形） / 終止形と同形だが、係り結びなので
連体形

(13) 「し」（過去の助動詞「き」の連体形） / 「消え+に+
し」の「し」

(14) 已然形。「こそ」を受けているから。命令形と同形だ
が、係り結びなので已然形と判断する / ★最頻出のひっかけ

D 口語訳

(15) このようなことがこの世にあるだろうか、いや、あり
はしない。

(16) どうして都を忘れるだろうか、いや、忘れはしない。

(17) 雪が降るので、道が見えない。

(18) 君の御代はいつまでも栄えるだろう。

E 記述と応用（解答例）

(19) 文中に係助詞があると、文末の活用語が決まった活用形で結ばれる決まり。(三十三字)

(20) 係助詞があるのに、文が途中で続いたり結びの語が省かれたりして、結びが現れないこと。

(21) (1) ア（連体形）(2) イ（已然形）(3) イ（連体形）／係助詞を見て形を決める

F まとめ

(22) 「ぞ・なむ・や・か」＝連体形／「こそ」＝已然形

(23) 強意

【現代語訳】

①山里に春が来たのだった。／②この花はたいそう美しい。／③雪が降るので、道が見えない。／④（昔と同じ）月ではないのか、春は昔の春ではないのか。／⑤どの山が天に近いのか。／⑥しみじみと（あなたは）お思いになっているだろう。／⑦鳥の声が一晩じゅう聞こえる。／⑧命が惜しい。／⑨都へ帰るべきだろうか。／⑩風が吹くので、花が散ったのだった。／⑪私こそがその人を知っている。／⑫このようなことがこの世にあるだろうか、いや、ありはしない。／⑬露が消えてしまった。／⑭どうして都を忘れるだろうか、いや、忘れはしない。／⑮月の都の人が迎えに参上する。／⑯君の御代はいつまでも栄えるだろう。